



職業奉仕委員会
委員長

中嶋 進治

(大阪城東RC)

本年度第1回クラブ職業奉仕委員長会議は、8月29日午前大阪YMCA会館で開催されました。

大谷透G、松本新太郎GE、岡部泰鑑GN、大森、西垣、鈴木、井上、重里、青木、藤田の7ガバナー補佐、6研修委員をお迎えし、72クラブの職業奉仕委員長が出席しました。

まず、神崎茂PGから「ロータリーの心、職業奉仕」と題した講演がありました。神崎PGは、今年1月に行われた国際協議会において、ラジェンドラ・サブ元RI会長が、近時、ロータリーにおいて、職業奉仕が忘れ去られた部門になっていることを懸念され、主として職業倫理を強調していたことを指摘されました。

また、昨年度、各クラブに対して実施した職業奉仕のアンケート調査から、職業奉仕委員長の悩みとして、①職業奉仕についての一般会員の認識が乏しい②職業奉仕について、語れる人がいない

③具体的な活動がわからない④職業奉仕の成果とは何か、等があがっていたことを話され、委員長が、「職業奉仕をどう捉えるべきか」と悩んでいるのが、実情ではないかと話されました。そして、神崎PGは、これら悩める委員長に対する一つの回答として、次のように述べられました。

「ロータリーは倶楽部であり、人材の宝庫でもある。従って、会員間の親睦と信頼を深め、情報の交換を通じて、それぞれの事業の発展を考えればいいのではないか。その具体的な方法としては、例会やその他の会合の時間を利用して、ロータリアンが、自らの職業体験を通じて、情報その他について他のロータリアンに語りかける10分、15分卓話の実施等を試みたらどうだろうか。」

また地区で推奨している出前授業については、神崎PGご自身も工場の進出先の島根県出雲地方の地元市長や教育長の要請により、地元の中学生



に対し、職業講話を行っておられることも披露されました。そして、出前授業が職業を通じて社会に奉仕する有効な方法の一つではないかと指摘されました。

次いで、畑田耕一前地区職業奉仕委員長から「職業奉仕と出前授業」について、ご自身が長年行っておられる小・中学生への出前授業の体験を通して講演があり、出前授業で大事なことは、自分の専門分野の根本原理、哲学を子供たちに伝えることだと強調されました。子供たちは根本原理、哲学を持ち前の想像力を働かせて理解しようと努力します。これはやがて新しいことを考える創造力へと展開していくこととなります。ぜひ各クラブにおいて、出前授業を推進して頂きたいと要請されました。

最後に、今年度、クラブとしてどのような職業奉仕の事業をするのかについて、「フォーラム」「職

場見学」「関連卓話」「出前授業」「職場体験」「その他」の6項目にわたって、それぞれ2, 3のクラブから事業計画の発表を行っていただきました。紙面の都合で詳細はお伝えできませんが、いずれも意欲的な事業計画でした。他のクラブの事業計画を参考にされて、自らのクラブの事業計画をさらに充実したものにして頂ければ、地区職業奉仕委員会としては、少しはその役目を果たせたのではないかと思います。

そして、来年3月ころに実施する第2回職業奉仕委員長会議で、実施した事業を発表し、これを討議して頂き、職業奉仕活動をより充実したものにしていくことができればと思っています。

